

3/16 (土) 棚田のある自然を満喫

第二農場の兵庫畑で、「棚田オーナー制度」による農業体験が行われました。この活動は、都市と農村の交流を図るとともに美しい棚田を保全する目的に16年前から行われているもので、今年も23組80人の方から申し込みがあり、うち半数以上が県外からの参加者となりました。

この日は、開講式に始まり、棚田の一角の畑でジャガイモの種まきを行いました。昼食は、参加した方と地元の方が膝を交え、振る舞われた地元の野菜を使ったカレーや漬物に舌鼓を打ちました。



3/16 (土) 地域に新たな「場」を

市役所内で、2月16日(土)と2回にわたり、矢板ふるさと支援センター「TAKIBI」主催のワークショップが開催されました。国内外で活躍するクリエイター集団BAUM代表の宇田川さんを講師に「『場を生む』ために必要なコトって?」と題し、「場を生む」コツや「コンセプトデザイン」の重要性などを学びました。

参加した高校生団体「YAITA ALL DIRECTIONS」の椎貝さんは「ここで学び、感じたことを自分たちの活動に活かしていきたい」と感想を話してくれました。



3/16 (土) 文化の多様性を学ぶ

文化会館小ホールで「中学生海外派遣事業帰国報告会」が行われました。1月11日(金)から7日間に渡り、アメリカ・ロサンゼルス市を訪れホームステイや現地の中学校生活を体験した16人が、活動の様子などをスライドにまとめ報告しました。

報告では、日本とアメリカの食生活や住環境の違いに驚きながらも、多くの生徒が海外派遣の体験を通して、文化の違いを認め合うことやコミュニケーションの大切さについて学んだようでした。



3/17 (日) かわもわたしも健康

3月23日(土)に道の駅やいた周辺で開催された「ツール・ド・とちぎ」に向けてコース内の河川敷をきれいにする美化活動が行われました。この活動は、来場者に気持ちよく観戦してもらうことや、参加者がゴミ拾いを兼ねてウォーキングをすることで健康増進を図ることを目的として企画されたものです。

参加した方は「道も川もきれいになり、さわやかな気分になった。多くのごみが捨てられている現状を知ってもらえ、たくさんの方に参加してもらいたい」と話してくれました。



3/19 (火) 西小最後の巣立ち

昨年度末で閉校した西小学校で、最後の卒業式が行われ、4人の児童が卒業を迎えました。校長先生から卒業証書を受け取った卒業生たちは、両親や先生、在校生が見守るなか、壇上で自分が抱く将来の夢を発表しました。

在校生と向き合う「お別れのこぼれ」では、西小学校で過ごした6年を振り返り「すべての思い出がかけがえのない財産。今日の日を新たな出発点としてこれからの道を胸を張って歩いていく」と大きな声で述べ、6年間の思い出とともに学校を後にしました。



3/23 (土) 銀輪の熱戦に湧く

県内を舞台に国際公認のサイクルロードレース「ツール・ド・とちぎ」が開催され、3回目となる今年も、初めての周回レースが道の駅やいたをスタート・ゴールに行われました。沿道には、全国各地から国際レースをひと目見ようとたくさんの観客が訪れ、熱戦を見守りました。

イベント会場には、実際のコースを楽しむことができる体験シュミレーターや模擬店のほか、パブリックビューイングのための大型ビジョンが設置され、観客は市内で行われたレースを楽しんでいました。



3/30 (土) 健康体操で元気いきいき

文化会館小ホールで市介護サービス事業者連絡協議会主催の第4回市民公開講座が行われました。これは、介護保険制度や地域包括支援センターについて多くの市民に知ってもらうために開かれたもので、70人が参加をしました。

第2部では、社会福祉士でやいた応援大使でもある、えりのあさんを講師に迎え「健康体操で元気いきいき!~自分らしく生きるために~」と題し、特別講演が行われました。自らが経験したエピソードを交えた講話に加え、ライブや健康体操を取り入れたにぎやかな講演会となりました。



3/31 (日) あで 艶やかにサクラ咲く

矢板武記念館で、3月29日(金)~4月7日(日)にかけて、樹齢190年のシダレザクラの開花に合わせて、ライトアップが行われました。また、この日は、茶会や箏の演奏、華展をサクラと共に楽しむ「観桜会」が開かれ、多くの方でにぎわいました。

茶華道協会長の長谷川さんは「シダレザクラの開花時期は若い方も記念館に多く訪れる。茶会や箏の演奏会に気軽に参加してもらい、日本の伝統文化に触れ、少しでも興味を持ってもらえたら」と話してくれました。



◀ライトアップ期間中、市内外から2,111人の方が来館し、幽玄なシダレザクラを楽しみました。